

日本社会の「ハーフ」をめぐる家族・学校・労働市場・街頭
—コンネルのレジーム理論によるライフストーリー分析—

一橋大学社会学研究科博士課程3年 田口ローレンス吉孝

1.目的

国際結婚は増加し、近年「ハーフ」「ダブル」と呼ばれる人々への関心は非常に高まっている。しかしながら、社会学領域ではこれまで、かれらが直面する差別的体験や日常生活で投げかけられるステレオタイプの実態、それらに対する当事者の抵抗や対応のあり方について十分に研究がなされてきたわけではない。そのため、本研究の目的はかれらのライフストーリーに着目し、日常生活の個別の経験の諸相をインタビューデータをもとに実証的に分析していくことである。

2.方法

本研究では「ハーフ」もしくは「ダブル」とよばれる人々の当事者コミュニティへの4年間の参与観察データおよび、当事者である42名の人々のインタビューデータをもとに分析を行う。特に、コンネルの用いる「レジーム」理論を用い、インタビュー分析で抽出された「家族」「学校」「労働市場」「街頭」という四つのレジームにおける特徴的な規制的作用、およびレジーム間の相互関係について明らかにしていく。

3.結果

分析から、これらのレジームにおける個別の規制的作用が明らかとなった。家族レジームでは家父長的な家族規範によって偏見をうけるケース、学校レジームでは「日本人らしさ」への同化圧力といじめの問題、労働市場レジームでは外見や名前から就職差別を受けるケース、街頭レジームでは警察からのレイシャル・プロファイリングの深刻な状況について人種やジェンダーの観点から論じた。さらにレジーム間の相互関係も分析し、とりわけ学校、労働、街頭の各レジーム編成の背景に家族レジームの影響が「補完的」(Connell 1987=1993:206)に作用していることが明らかとなった。

4.結論

以上から、日本社会(関東圏)の「ハーフ/ダブル」をめぐる家族、学校、労働市場、街頭レジームにおける規制的作用の諸相の一部分を明らかにすることができた。

文献

Connell, R.W., 1987, *Gender and Power: Society, the Person and Sexual Politics*, UK: Polity Press. (=1993, 森重雄・菊池栄治・加藤隆雄・越智康詞訳『ジェンダーと権力-セクシュアリティの社会学』三交社.)